

平成 16 年度「特色ある大学教育支援プログラム」

採択取組の概要および採択理由

大学・短期大学名	京都大学	整理番号	1-3-029
応募テーマ	主として教育方法の工夫改善に関するテーマ		
取組名称	相互研修型FDの組織化による教育改善		
申請単位	大学全体		
申請担当者	田中 每実		
（取組の概要） わが国の高等教育は、トップダウンの啓蒙型FD組織化段階を終えつつある。今日では、それぞれの現場にふさわしい相互研修型FDの組織化こそが、求められているのである。 「自由の学風」を理念とする京都大学では、すでにこれまでもさまざまな自生的な相互研修型FD活動が展開され、これらを支援するシステムも、高等教育研究開発推進センターを中核として開発されてきた。公開実験授業などからなるこの支援システムは、単に学内の教育改善を駆動するばかりではなく、全国的レベルでも、公開研究会やさまざまなメディアでの情報提供を通じて、教育改善の典型的なモデルとなってきた。 今回の取組では、この支援システムを活用して工学部のトータルな相互研修型FD活動を支援し、そこから得られた知見によってシステムを整備・充実させ、これによって全学的なFD組織化と教育改善の前進をはかる。これは、FD組織化の今日の段階では、格好の実践モデルを提供するものとなる。			
（採択理由） この取組は、京都大学の教育理念である「自由の学府」のもとで、従来から、全学、部局、教員レベルでの様々な相互研修プログラムを行ってきたものを、さらに発展させ、自主的な相互研修型FD活動を全学レベルで組織化しようとするものです。すでに、全学共通教育や工学部などにみられるように、自生的FD諸活動とそれへの組織的支援によって大学の教育改善は着実に達成されてきています。 わが国のFD活動は、啓蒙時代から『相互研修型FDの組織化』へと移行しなければならない時期にきていますが、京都大学では、前述したこれまでの実績を踏まえて、①ボトムアップの組織化の援助、②ローカリズムとユニバーサリズムの統合、③FD第2期の実践的課題に応える汎用性の高い実践モデルの公開といった具体的活動を通じて組織化を一層進め、その成果をどこからでも簡単にアクセスできるものにするという取組をしています。これは、FD第2期実践モデルの構築と公開を進めるものであり、その点で、他の大学、短期大学の参考になりうる優れた事例であるといえます。 また、この取組には、今後、全学的に広げていかなければならないという課題も認められますが、これを克服すれば更なる発展が期待されます。			